

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
526	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, serum gamma-glutamyltransferase, and helicobacter pylori infection in a population-based study among 9733 older adults. 一般高齢者 9733 人における飲酒量、血清 $\gamma$ -GTP とヘリコバクターピロリ感染状況	
執筆者	
Gao L, Weck MN, Stegmaier C, Rothenbacher D, Brenner H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Epidemiol. 2010 Feb;20(2):122-8.	
キーワード	
酒種類、飲酒量、Gamma-Glutamyltransferase、ヘリコバクターピロリ、住民対象	
要旨	
目的： 中程度の飲酒は、その抗菌作用により、ヘリコバクターピロリ感染除去を促進することが示唆されている。我々は、大規模住民集団において、現在ならびに生涯の飲酒量、および飲酒量の確立されたマーカーである血清 $\gamma$ -GTP と、ヘリコバクターピロリ感染状況の関連について検討した。	
方法： 本 ESTHER 研究のベースライン調査において、ヘリコバクターピロリ血清抗体価、および $\gamma$ -GTP が、50-74 歳の 9733 人において測定された。生活習慣・既往歴に関する情報は標準化された自己記入式質問票により得られた。	
結果： 有意な負の関連が、量反応的に、現在ならびに生涯の飲酒量とヘリコバクターピロリ血清抗体陽性率との間に観察された。現在の飲酒量との関連に比べ、生涯飲酒量との関連はより明瞭であり、そうした負の関連は男女いずれにおいても観察された。ビール飲酒者と比べ、ワイン飲酒者およびちゃんぽん飲酒者で、より強い関連が認められた。 さらに、飲酒者においては、有意な負の量反応関係が、 $\gamma$ -GTP とヘリコバクターピロリ血清抗体陽性率との間に観察された。	
結論： 本結果は、中程度の飲酒はヘリコバクターピロリ感染除去を促進する、という仮説を支持するものである。	